生きる歓び（1960）

QUELLE JOIE DE VIVRE
CHE GIOIA VIVERE

メディア 映画
ジャンル ドラマ　コメディ
製作国 フランス／イタリア
色彩 B&W
時間 117分
初公開日 1962/05/23
公開情報 東和

【解説】

２０年代のローマ。兵役を終えたドロン扮する主人公は働こうにも職がなく、街をうろつき見つけたポスターに飛びつき、何も分からず黒シャツ党に入り、反ファシストのアジビラを刷った印刷所を突きとめるように命ぜられる。何軒か探し回った挙げ句、主人公は一目惚れした娘のいる印刷屋に住み込みの助手として居ついてしまう。だが、そここそ目当ての場所、その主人がアナーキストの幹部。なのに、“スペインから将軍暗殺のための殺し屋が侵入した”との噂を耳にした主人公は娘の気を引くため、暗殺者のごとく振舞い、彼に対する一家の態度は急変。案の定、娘も親切に。その時、ローマでは平和博覧会が開催され、警察は要注意人物として一家を留置。ところが、彼らは軽妙に脱獄を企て若い二人を逃がす（この辺がルネ・クレールを想い起こさせる酒脱さで本篇の白眉だろう）。そして、博覧会当日、本物の暗殺者が出現するが……。ドロンの明るい魅力で快調に見せる政治コメディ。

【クレジット】

監督	ルネ・クレマン	Rene Clement
製作	フランコ・マグリ	
脚本	ルネ・クレマン	Rene Clement
	ピエロ・デ・ベルナルディ	Piero De Bernardi
	レオ・ベンヴェヌーチ	Leo Benvenuti
撮影	アンリ・ドカエ	Henri Decae
音楽	アンジェロ・フランチェスコ・ラヴァニーノ	Angelo Francesco Lavagnino
出演	アラン・ドロン	Alain Delon
	バルバラ・ラス	Barbara Lass
	ジーノ・チェルヴィ	Gino Cervi
	リナ・モレリ	Rina Morelli
	パオロ・ストッパ	Paolo Stoppa

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.